

W A L E R I

A N

02.01
BLANCHE

02.15
GOTO, L'ILE D'AMOUR

B O R O W

C Z Y K

新文芸座シネマテーク vol.26

ヴァレリアン・ポロフチク

2月1日 ブランシュ

2月15日 愛の島ゴトー

新文芸座





ヴァレリアン・ボロフチク

Walerian Borowczyk

1923年9月2日、ポーランド生まれ。はじめ美術学校で学んだ後、絵画とリソグラフを手がける。1953年には、映画ポスターの製作によってポーランド国家賞を受賞している。やがてアニメーションの製作を始め、シュルレアリスティックな作風で知られるようになる。1959年、パリに移住。クリス・マルケルと共同監督で『宇宙飛行士』を製作した。この時期のアニメーション作品はテリー・ギリアムに大きな影響を与えている。1968年『愛の島ゴトー』で長編実写作品の製作に移行。1971年には第2作『ブランシュ』を製作した。ステファン・ジェロムスキによるポーランド文学の古典的名著を映画化した『罪物語』(75年)はカンヌ国際映画祭に正式出品され、世界的に知名度を上げた。『インモラル物語』(74年)や『邪淫の館 獣人』(75年)などでは激しいポルノグラフィックな描写を行い、大きなスキャンダルを巻き起こす。1987年には『エマニュエル5』を監督している。2006年、心不全のためパリで死去。近年になってパリやニューヨークで大規模なレトロスペクティブが開催されるなど、世界的に再評価が進んでいる。

“ヴァレリアン・ボロフチクは風変わりな男である。彼の作品はユニークな残酷さと奇妙さにあふれている。彼は圧倒的に素晴らしいアニメーションの製作からはじめて、やがて『愛の島ゴトー』や『邪淫の館 獣人』といったクラシックな名作を監督。その後、『エマニュエル5』に行き着いた。捻くれた見方に思われるかも知れないが、それはボロフチクに相応しいキャリアの締めくくり方だったと私には思われる。”
—— テリー・ギリアム

ブランシュ

Blanche

2.1 [金]

1971/フランス/BD/94分



監督・脚本: ヴァレリアン・ボロフチク

原作: ユリウシュ・スウォヴァツキ

製作: ドミニク・デュヴェルジェ

撮影: ガイ・ダーバン

出演: ミシェル・シモン/リジア・ブランシス/ジャック・ペラン/ジョルジュ・ウィルソン

人里離れた場所に立つお城では、国王を迎えて宴が開かれていた。城主の妻ブランシュは、若く、純粋で、美しい女性だった。誰もが彼女に恋をした。プレイボーイとして知られた国王の従者バルトロメオもまたその一人だった。バルトロメオは、なんとかしてブランシュの気を引こうとあの手この手で彼女に迫るが、それは悲劇の始まりだった。

愛の島ゴトー

Goto, l'île d'amour

2.15 [金]

1968/フランス/DVD/89分



監督・脚本: ヴァレリアン・ボロフチク

脚本: ドミニク・デュヴェルジェ

製作: ルネ・セヴネ

撮影: ガイ・ダーバン

出演: ピエール・ブラスール/リジア・ブランシス/ミシェル・シャルル/ルネ・ダリー

野蠻な独裁者ゴトー三世によって支配された島ゴトーでは、誰もが頭文字Gの名前を持っていた。ゴトーでは犯罪者は公衆の面前で命を賭けて決闘をさせられた。一人の犯罪者が、ゴトー三世の美しい妻に命乞いしたことで処刑を免れる。彼は、ハエ取りから犬の世話係、そして独裁者の靴みがきへと出世していくが、彼の心は復讐と権力欲に支配されていた。彼は、独裁者の妻が浮気していると彼に密告する。

新文芸坐シネマテーク vol.26 ヴァレリアン・ボロフチク

	開場	開映	
2.1 [金]	19:00	19:15	ブランシュ
2.15 [金]	19:00	19:15	愛の島ゴトー

各日、映画終了後に映画批評家・大寺真輔さんの講義が60分程度ございます(講義終了22:00頃)

特別料金

一般 1800円 / 学生 1700円 / 前売・シニア・友の会 1500円

※招待券使用不可

※当日は整理番号順でのご入場となります

※整理番号付き前売券は1/9(水)より当館窓口(10:20~)・チケットぴあにて一斉発売

共催: IndieTokyo

大寺真輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文藝界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。

IndieTokyo主宰。



感動はスクリーンから

新文芸坐

03-3971-9422

www.shin-bungeiza.com

twitter: shin_bungeiza

東京都豊島区東池袋1-43-5

マルハン池袋ビル3F



IndieTokyo Newsletter

上映情報をいち早くお届け! メールマガジン配信中
新文芸坐シネマテークをはじめとする企画上映や海外の映画情報、映画レビューを隔週でお届けしています。
購読料は無料。登録はこちらから。

